



会員寄稿

「学び」とは何か

人権・同和教育課 三好 章子

我が家には中学1年生をはじめとして3人の子どもがおり、今年の4月に3番目の子どもが、やっと小学校に入学した。永遠に続くかと思われた保育園・幼稚園の送迎から解放され、自分で歩いて登下校してくれることに感動しながらも、これから何年も続く義務教育の長さには呆然とする時もある。保護者の皆様は、この義務教育の長さを乗り越えられてきたのかと思うと、尊敬の念を抱いてしまう。そして、小・中学生の子どもが2人から3人になるということは、当然、夏休みの宿題も2人分から3人分になるわけで・・・読書感想文にポスター、理科の自由研究に毎日の一言日記、朝のラジオ体操に朝顔のお世話。今年も私が子ども以上に子どもの宿題に頭を悩ませ、早くしなさいと焦らせ、「分かってるし！」と逆ギレされるという恒例の風景が繰り返されたのだ。

それでも私自身が「勉強させられたなあ。」と思うことはあった。ある日、防火ポスターの色塗りをしようとしている息子に、私は「文字を一番先に塗って、次は淡い色だよ。背景は途中で色が変わったら変になるから、余るくらいたっぷり作ってから塗らないと失敗するよ。」とクドクドと繰り返言い置いてから家事をしていた。すると・・・

息子「お母さん、背景の色が足らなくなった。あとこの色も。」

私「ほら！あれほど言ったのに！」怒

息子「最初からやり直す・・・。」

私「最初からやり直したら、今まで塗ったのがもったいないよ。今日はそれまでにして、明日、乾いてから上から塗り直したら？」

息子「いや、それだと左側だけが厚塗りになって変になるからやり直す。」

私「じゃあ、今まで塗ったのが無駄になるよ。絵の具ももったいないよ。」

息子「いやなんよ。やり直す。」涙

私「いや、だからそれだと・・・。」

私自身、このやりとりでうんざりしながら、そもそも夏休みの宿題の意味って何だろう？とぼんやり考えていた。事前に指示して失敗を回避させることで何の力がつくのだろう？と。宿題に限らず、「学ぶ」という行為はどのようにすれば自分のためになるかを考えながらするのが「学び」なのに、それをとばして先回りする方法だけ教えようとしていた自分が恥ずかしくなった。そして、私が次にすべきことは、翌日、乾いた絵の具の上から塗り直しをさせるのではなく、息子と共に足りなくなった画用紙と絵の具を買いに行くことだった。今度は、下書きの段階からすべての色を決めて、必要な絵の具の種類と量をメモして買い物している姿に彼の「学び」を感じた。

「失敗は成功の母」という言葉があるが、親としても教師としてもこれが意外に難しい。子どもに主体性や自由な発想を望みながらも、失敗しないようについ手を出したくなるのが親心だし、生徒の勉強のやり方を見て「そのやり方より、こっちのほうがいいよ。」と言ってしまう自分がある。もちろん、絶対に指示が必要な場面もあるが、時には相手の成長を信頼して見守ることも必要なのかな、と思えた今年の夏だった。保護者の皆様、悩みや葛藤も多いのが育児ですが、子どもたちの「学び」のために、共に頑張りましょう！2学期も、どうぞよろしく願いいたします。